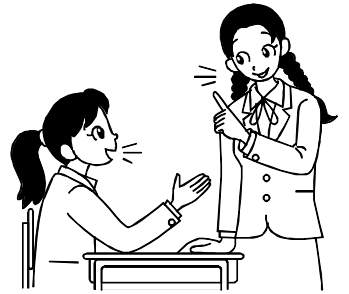


## 「いい学校」ということ~~~~~ 校長 三輪 秀文

P T Aの広報誌を書くにあたって、保護者の立場に立って、「どんな学校に通わせたいか？」ということを考えてみた。

漠然とした表現だが、「毎日、子どもが楽しんで学校生活を送れる学校」と応えるだろう。遠い過去であるが、親の立場で自分のことを思い起こしてみると、我が子にはやっぱり学校からは笑顔で帰ってきて欲しいと願っていたのであろう、きっと。

学校では、4月になるときまって、学級目標や授業の目標が語られる。私も、かつては、学級担任として、子どもにとっての「いい学級」ということを真剣に考えたことがあるし、子どもたちに考えさせたこともある。「いい授業」イメージや「いい学級」イメージは、教員としての生命線のようなものだからである。ただ、教師になってこの方、「いい学校」、「通わせたい学校」となると、その具体化を試みたことはあったろうか？ 考えてしかるべきはずなのに、テーマが大きすぎて真剣に考えたことがなかったような気がする。



そこで、校長の立場で、じゃあ「いい学校」ということをあれこれ考えてみると、授業の場面であるとか、学級での居場所のこととか、部活動とか、いろんな場面が浮かんで来て、あれもこれもとなってしまう。そして、具体的な言葉で表そうとすると、長々として、細部にわたってしまうのである。それでは、絵に描いた餅になってしまうような不安に駆られてしまう。だが、具体的な学校イメージがなかったら、近づくことはできないことも事実である。

「いい学校」で育てて欲しい生徒の姿を思うと次のようになる。

子どもには、自分を尊い、かけがえのない存在であることを自覚して欲しいし、失敗を恐れないチャレンジ精神旺盛な向上心の固まりであって欲しい。そして、学校にやって来れば仲間を思い、仲間とのコミュニケーションを大切にしたい。また、家に帰れば家族との団欒を大切にしたい。しかも、人任せで、依存的ではなく、家庭でも、学校でも、それに、地域でも、なにがしかの役に立ち、必要とされるような人間に育てて欲しいと願っている。私たちは、

こういう願いを念頭に、いつも子どもたちに接していきたい。それがかなうような営みがある学校が「いい学校」だと考える。

そこで、「自尊心と向上心を持ち、仲間や家族を大切にするとともに、学級や学校、地域の形成者としての自覚と行動力を備えた生徒を育てることのできる学校」

悩みながらも、考えだした本校の「いい学校」イメージ＝「学校教育目標」である。

できるだけコンパクトにしたつもりであるが、これ以上どの言葉もそぎ落とせないでいる。

ところで、保護者のみなさんも“「いい家庭」とはどんな家庭なのか？”について、あまり考えたことがないと思う。しかしながら、誰しものが目指しているはずでもある。この機会に、「いい家庭」をイメージしてみてもはどうでしょう。

